

埋め込み理論を用いた地域のスポーツ産業クラスター内の 組織間ネットワーク構造の様相： 磐田市に着目して

スポーツビジネス研究領域

5014A027-0 長尾 百合子

研究指導教員：武藤 泰明 教授

1. 背景

近年、日本では生涯スポーツが発達し、スポーツを楽しむ人々の年齢層が広がるとともに、スポーツやレジャーを楽しむ場所や機会は飛躍的に増大している。その中スポーツ産業は、地域において地域スポーツの振興と、地域経済の活性化を担っている(大西、2012)と言われ今後もスポーツ産業は注目すべき産業であると考えられている。

2. スポーツ産業の先行研究

スポーツ産業を発展させるためには産学官の連携で事業の展開が必要である(平田、2014)と言われ、多面的な役割をもつスポーツクラブの各メンバーの分析から、組織間関係の多様性を検討し、制度や契約として表出しない組織の特徴を明らかにする必要がある(宮良、2013)と言われている。さらに、スポーツ組織は地域住民、行政、自治体、民間企業と関係を構築し、連携を図ることによってネットワークの獲得と創造に結び付くと考えられる(長積、2008)。一方、スポーツ分野で知識マネジメント、信頼関係の醸成、知識マネジメント等に必要なネットワークといった組織の外部環境に焦点を当てた研究が少ないと言われている。今後のスポーツ産業の発展及びスポーツ産業の地域活性化のために企業間のネットワークに向けた研究の蓄積が必要と考えられる。

3. 特定産業における先行研究

国の繁栄、国の経済成長性は天然資源、労働力、金利、通貨価値によってきまるものではなく、その国の産業において決定すると言われ、地域活性化の手段として産業クラスターが着目されている。Porter(1998)は、産業クラスター概念を「ある特定の分野に属し、相互に関連した、企業と機関からなる地理的に近接した集団」と定義している。ポーターの定義では、産業に関連する組織として同業他社だけでなく製品・サービス生産のプロセスに関与する供給業者・関連企業、金融機関、研究機関、大学なども、クラスターを構成する主体としている。さらに地理的には、州、国、地域と広く定義されている。

産業の構造の把握、分析検討にはPorter(1998)のダイヤモンドフレームが有力な概念枠組みになっている(石倉他、2003)。ダイヤモンドフレームとは特定産業における組織、環境をそれぞれ4つの属性に分類しおり、1. 企業戦略・競争環境、

2. 関連産業・支援産業 3. 需要条件 4. 投入条件・要素条件である。

産業クラスターは、地域、国等幅広い組織、多種多様な産業に対し、組織の生産性向上を検討されている。本研究では、地域スポーツに焦点をあて、産業クラスターの適用し、産業構造を把握し今後の産業発展の課題を検討していく。

4. ネットワークにおける先行研究

クラスターの特徴として組織は社会ネットワークを媒介にして内外の経営資源を、柔軟に結合するネットワーク組織としての性質を持つ。日本の産業クラスターの事例を分析する上では既存の関係を持つ主体が、地理的近接に基づく関係をいかにして構築してくのかという視点が必要不可欠になる(稲垣、2011)と言われ、プロセスが重要視されている。

5. 組織間信頼

ネットワークの中で組織間の信頼関係を明らかにできる埋め込みが着目されている。埋め込みは、社会的動機、経済的動機を信頼関係の分析観点に含んでいる。

6. 信頼の操作的定義

埋め込みの企業の信頼性については 1. ある企業は今の協力関係にどのように協力しようと考えているのかという「意図」、2. ある企業が何ができるかという「能力」の少なくとも2つの次元に分けて考えたほうがよいと述べられている。

7. 目的

目的 1. 磐田市を対象に、地域のスポーツ産業クラスターの4要因内の組織と構造を、ダイヤモンドフレームを用いて明らかにする。目的 2. 埋め込み理論を用いて磐田市の地域のスポーツ産業クラスター内にある組織間のネットワーク構造の形成プロセスに焦点をあてながらクラスター発展のための今後の課題を明らかにする。

8. 分析対象者

インタビューを行った組織はジュビロ磐田、静岡産業大学、スポーツクラブたはらであった。対象は男性3名であり、現役職については全員スポーツ振興にかかわっていた。

9. 分析方法

目的1 に対しては、デュアルコーディングを実施している。目的2 に関しては内容分析を実施している。

10. 結果

表:デュアルコーディング結果

割り当てられた概念	インタビュー発言数	観察
競争環境 企業戦略	19	野球部、陸上部、卓球部、ラグビースクール、サッカースクール、磐田市体育協会、スポーツクラブたはら、ジュビロ磐田、ジュビロ磐田のサッカースクール、高道部、剣道部
需要条件	15	地元市民行政交流センター
要素 (投入) 条件	6	指導者、運動ができる場 スポーツとしての機運(野球、陸上、水球) ジュビロ磐田、高校女子サッカー
	24	警察(指導) 磐田市体育協会(アプローチ方法、指導方法) サッカー協会(アプローチ方法、指導方法) 行政(資金、バス、意思決定、芝) ジュビロ磐田(指導者(サッカー)、施設、授業実践の場、講師(メディカル、コンディショニング)) 高校(指導者(トレーニング)、選手) 静岡産業大学(指導者(サッカー)、陸上、体操、トレーニング、トランポリン、卓球)、指導の場、授業の場、講師、マシン)
関連・ 支援 産業	3	宿泊業 芝産

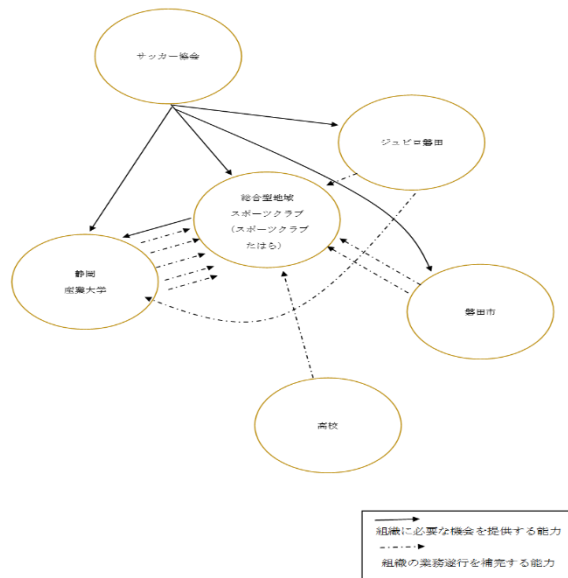


図:1 能力的信頼ネットワーク図 (過去)

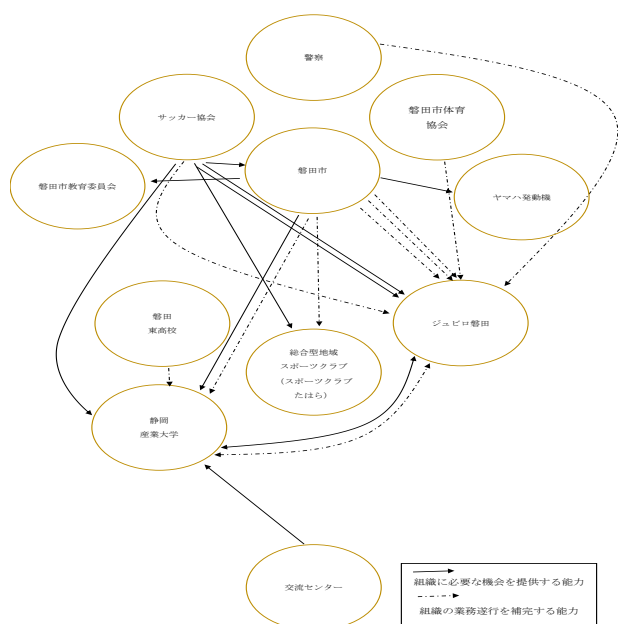


図:2 能力的信頼ネットワーク図 (現在)

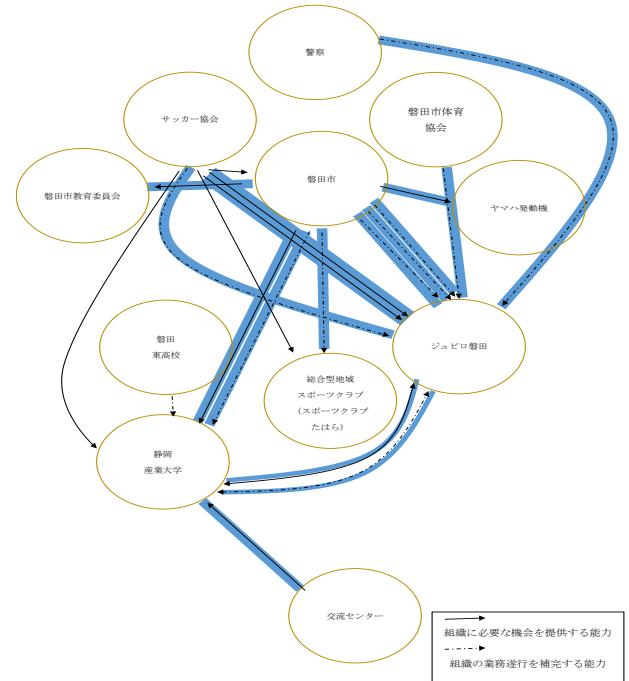


図:3 意図的信頼ネットワーク図

11. 考察

能力的信頼の過去と現在のネットワークプロセスの特徴としては「総合型地域スポーツクラブの能力の減少及び衰退」「ジュビロ磐田への能力の増加及び各主体の増加」「行政の能力の多様性」「静岡産業大学の能力の多様性」という要因がありネットワークが形成されていた。意図的信頼の場合、最も信頼関係が作られていたのはジュビロ磐田関係の協力関係であり、意図的信頼の構築が少ない組織としては、静岡産業大学であった。意図的信頼の構築が少なかった理由として、取引外の顔の見える関係が少なかったことが挙げられる。

課題として、以下の4点があげられる。1. 競合関係は、競合関係が見られなかった。2. 需要条件は市民からニーズをくみ取っていない組織が存在した。3. 投入条件は、大学は自ら資産を提供していなかった。4. 関連産業・支援産業は、情報、アイデアやイノベーションの継続的な交換、協働開発への取り組みが行われてはいなかった。

ネットワークの課題としては、1. ネットワークの規模を拡大する場合、「能力を持つ組織」「能力を享受する組織」が競合関係には出現した主体でネットワークには現れなかった組織があった。2. 全体的な意図的信頼が少なかった。多重結合と言って、現在行われている協力関係に関し、違う種類の協力も組織間で行うといったことが少なかった。

今後、連携の強化、産業の発展のため、協力関係把握、提携への基準としての有効活用も期待される。